

俳句

にし おとう し
西尾桃支



下関市
(1895～1978)

西尾桃支（本名、栄治）は、現・明石市の生まれ。下関市の西尾家の養子となる。九州帝国大学医学部卒業、医業を継ぐ。父其桃が白浜で客死した為、昭和七年遺志を継ぎ、俳誌『其桃』創刊とともに主宰となる。門流の養成に熱心で伝道師的役割を果たした。下関市俳句協会の設立、山口県俳句作家協会を結成して、山口県の俳句文化の興隆に尽くした。平成十七年は四十二回俳句大会となった。句集・文集は六冊に及び没後は『西尾桃支全句集』が刊行された。日和山公園に「鷗とぶ春の潮の秀にふれて」の句碑がある。『其桃』は西尾豊、中村石秋と継承されて平成十四年七十周年記念大会が催された。

（中村石秋）

【主な著作】

句集『子の血汐』（其桃追悼句集、昭和7年）

『暗水』（其桃発行所、昭和41年）

『西尾桃支全句集』（其桃発行所、昭和57年）